

会社説明資料



株式
会社

環境保全サイエンス

目次

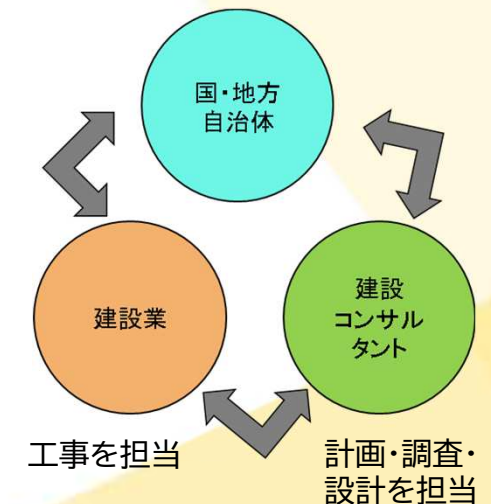
1. 当社の業種
2. 建設コンサルタントの仕事
3. 建設コンサルタントの種類
4. 農業・農村を取り巻く情勢
と農業農村整備事業
5. 仕事の体系と種類
6. 具体的事例
7. 年間スケジュール
8. クライアント(発注者)
9. 主な業務実績
10. 会社の所在地等
11. 会社の略歴
12. 就業条件
13. 資格取得の支援
14. 社内環境
15. 求める人材像
16. 会社説明会

1. 当社の業種

(1) 当社の業種は「建設コンサルタント」です

(2) 建設コンサルタントとは、

- ①国土交通省の建設コンサルタント登録規定に基づき国土交通省に登録された企業
- ②建設技術を中心とした開発・防災・環境保護等に関して、**計画・調査・設計業務**を中心に、**官公庁等を顧客**としてコンサルティングを行う



建設コンサルタントの企業数は全国で約4,000社
このうち北海道は約260社

2. 建設コンサルタント(建コン)の仕事

※わかりやすくするため医者に例えて

- ① 医者→患者さんの悪いところを調べる
建コン→地域・施設の課題や問題点を調べる
- ② 医者→患部を特定し、診断する
建コン→課題に対して、その対策を検討する
- ③ 医者→治療方針や処方箋をまとめる
建コン→対策を解決するための計画をまとめる
- ④ 医者→手術のための準備
建コン→工事を行うための設計を行う
- ⑤ 手術(工事)→建設会社の仕事
- ⑥ 医者→リハビリや術後検査
建コン→維持管理やモニタリング等



建設
コンサル
タント
の
仕事
内容

3. 建設コンサルタントの種類

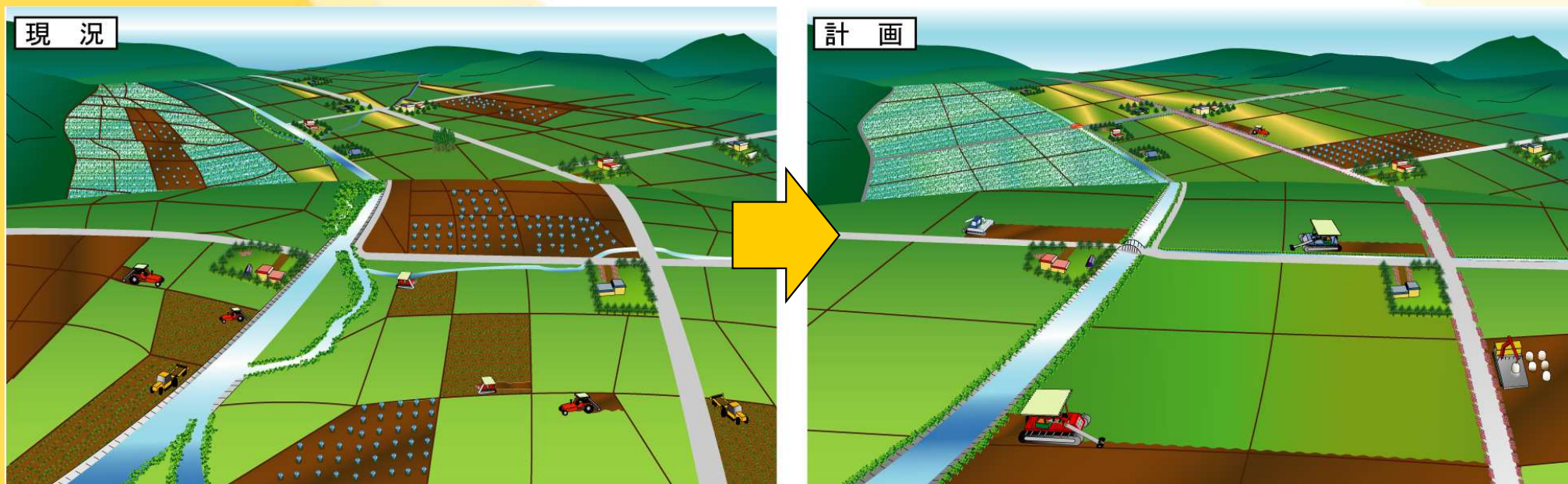
国交省の登録建設コンサルタントは21部門、当社は「農業土木」を専門分野とした会社

○河川、砂防及び海岸・海洋 ○港湾及び空港 ○道路 ○鉄道 ○上水道及び工業用水道 ○下水道 ○森林土木 ○水産土木 ○廃棄物 ○造園 ○都市計画及び地方計画 ○地質 ○土質及び基礎 ○鋼構造及びコンクリート ○トンネル ○施工計画、施工設備及び積算 ○建設環境 ○機械 ○電気電子 ○農業土木

農業土木分野の業務内容は「農業農村整備事業」に関わる調査・計画・設計が主体

農業農村整備事業は、農林水産省が所管する事業で、以下の2つの目的がある

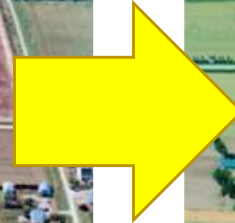
- ①農業生産条件の悪い農地などを整備
- ②農村の居住環境を改善



「農業農村整備事業」の具体例

くかくせいり

ほ場の大型化(区画整理)



〔現状（問題）〕

- ・田んぼが小さく機械作業が不効率
- ・水路がたくさんあり管理が大変

〔解決策〕

- ・大型機械がフル活用できるように田んぼを大きくする
- ・水路も再配置して数を少なくし管理作業を減らす

日本の農地面積は444万^{ヘクタール}（うち水田面積242万^{ヘクタール}）

「農業農村整備事業」の具体例

事業のイメージ図



[現状（問題）]

- ・農地に必要な水が十分に届かない

[解決策]

- ・どの施設で機能低下しているか調査
- ・機能低下している施設を改修



水利施設：頭首工（川の水を水田に引き入れる）

「農業農村整備事業」の具体例

水利施設： 畑地かんがい

〔現状（問題）〕

- ・干ばつ被害が発生する
- ・新しい作物を導入したい

〔解決策〕

- ・干ばつ時に散水できるようにする
- ・水の確保することで栽培できるようになった作物を導入



「農業農村整備事業」の具体例

〔現状（問題）〕

- ・生産性が低い
（排水不良）
（作土が不足）

〔解決策〕

- ・暗渠排水で
排水性の向上
- ・客土により
作土深の確保



暗渠（あんきょ）排水：水はけをよくする

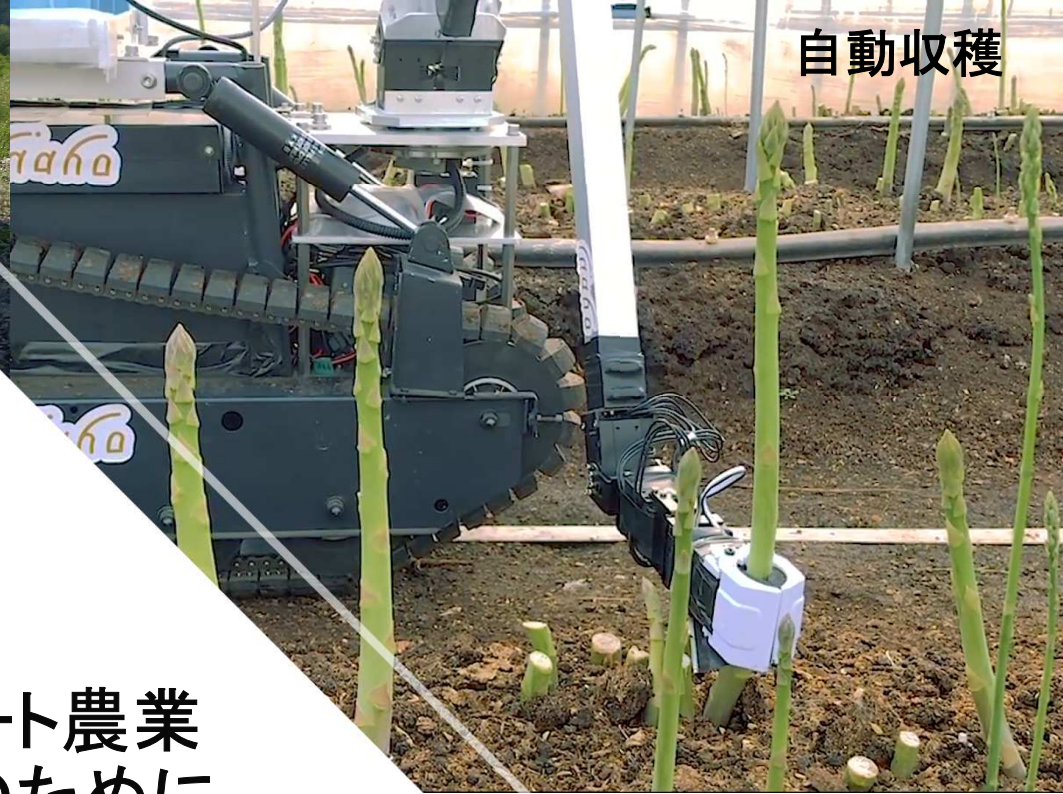


客土（きゃくど）：農地に有益な土を入れる

自動給水システム



自動収穫



スマート農業
推進のために
必要な条件検討

無人走行



ドローンによる防除

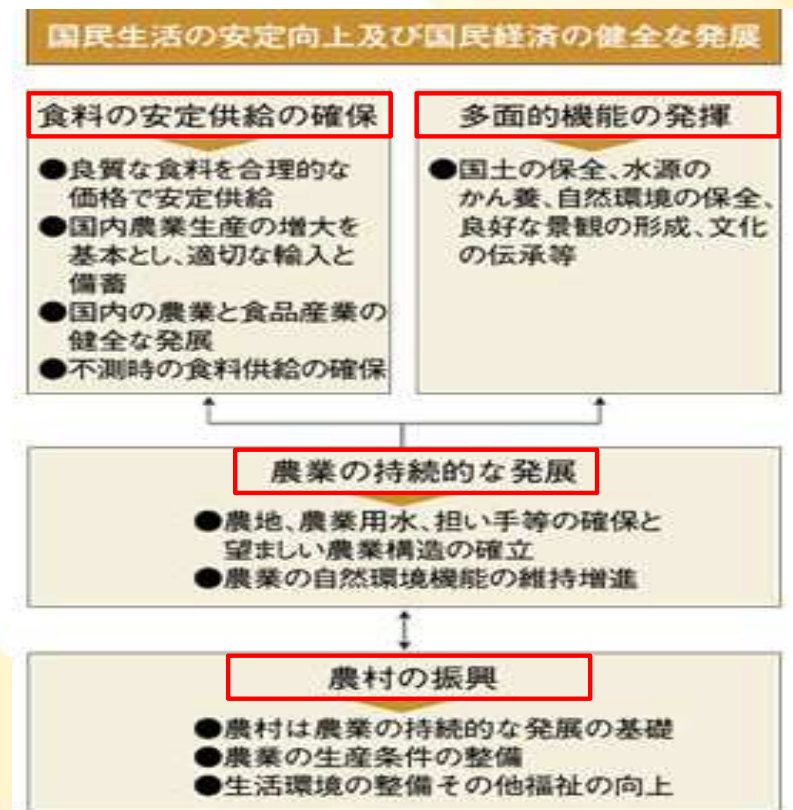


4. 農業・農村を取り巻く情勢と農業農村整備事業

- ①日本の低い食料自給率（約6割を外国に依存）
- ②高まる外圧（貿易自由化による安価な農産物の脅威）
- ③農業従事者の高齢化（65歳以上の割合65%、平均年齢67.5歳）
- ④国民の食生活の変化（コメ消費量が減少し肉の消費量拡大等）

農業農村整備事業は、

- ①農業農村の課題解決
のための手段として
- ②食料・農業・農村基本法の
4つの理念を実現する施策として

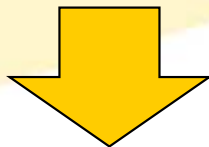


図一 食料・農業・農村基本法の理念



5. 仕事の体系と種類(1)

1. 地域・施設の課題や問題点を調べる



2. 課題に対して、その対策を検討する



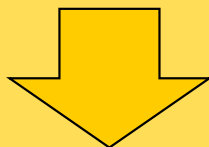
3. 対策を解決する計画をまとめる



4. 工事を行うための設計や測量を行う



5. 工事の実施



6. 維持管理やモニタリング等

- ①現況調査…統計や公表資料等で現状把握
- ②資源調査…土壌や水質を調べる(現地)
- ③環境調査…自然環境を調べる(現地)
- ④課題把握…上記を踏まえて課題を把握

- ⑤整備構想…計画のアウトライン策定
- ⑥活性化構想…農業を核とした振興策

- ⑦土地利用計画
- ⑧営農計画
- ⑨工事計画
- ⑩事業費算定
- ⑪経済効果算定

測量
実施設計
工事

※当社では
やってません

- ⑪環境モニタリング
- ⑫再評価
- ⑬事業効果検証
- ⑭事業管理

6-①現況調査

統計や公表資料により、地域の特性や課題を把握する

(2) 農業構造

1) 専業・兼業別農家数

地域の農家戸数の推移をみると、平成7年の2,253戸から平成22年には1,230戸と約45%の減少となっている。

専業・兼業別にみると、地域の専業農家の割合は平成7年の35%から平成22年には54%と増加している。

一方、兼業農家は平成7年以降減少傾向にあり、その背景には近年の厳しい農業情勢の影響を受けて、小規模農家や後継者不在の高齢者の離農があげられる。

認定農業者数の状況をみると、平成13年以降、認定農業者は増加傾向にあるものの、平成22年の専業農家と第1種兼業農家を合わせた認定農業者割合は、市町村合併前の岩見沢市区域で94%、北村区域で97%、栗沢町区域で88%と、北村区域で特に増加しており、岩見沢地域全域でも93%と、空知管内の87%、北海道の88%より高い割合を示している。

図 I-16 専業・兼業農家戸数の推移と構成 (岩見沢地域)

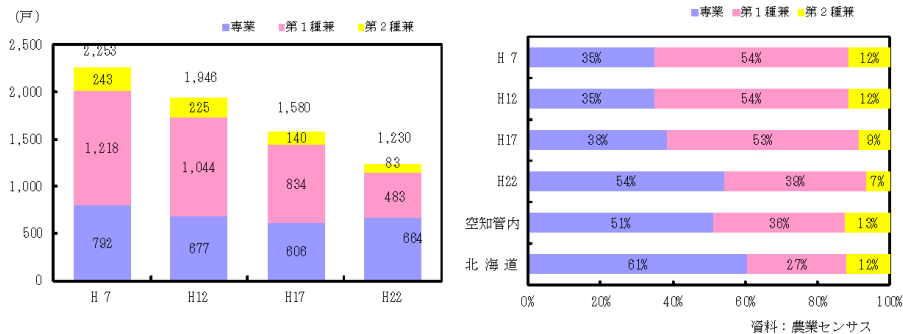
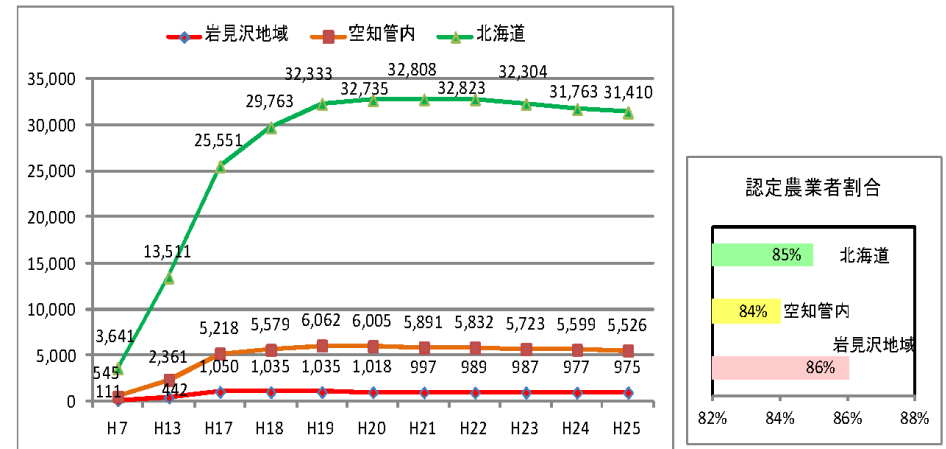


図 I-17 認定農業者数の推移



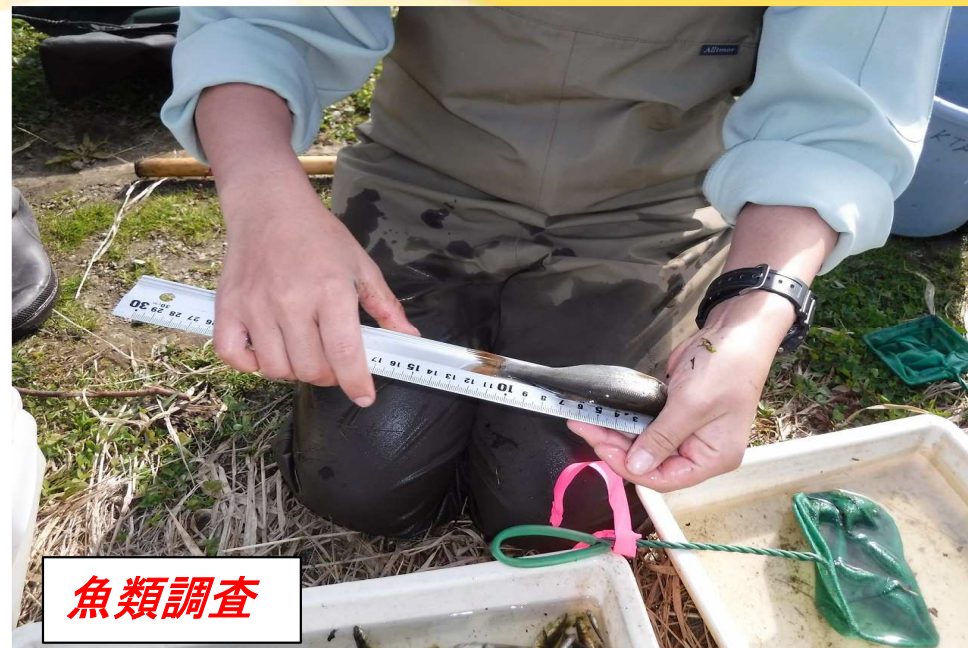
公表されている資料をもとに地域の現況を把握し、課題を明確する。

例: この項目では農家戸数の減少が持続、特に農業を専業としていない農家が減少

→ 労働力不足が課題で、新規就農者の確保や効率的な農業生産が必要

6-②資源調査 ③環境調査

現場調査で地域を把握する

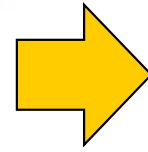


6-⑦土地利用計画

整備構想の一つに土地利用計画がある

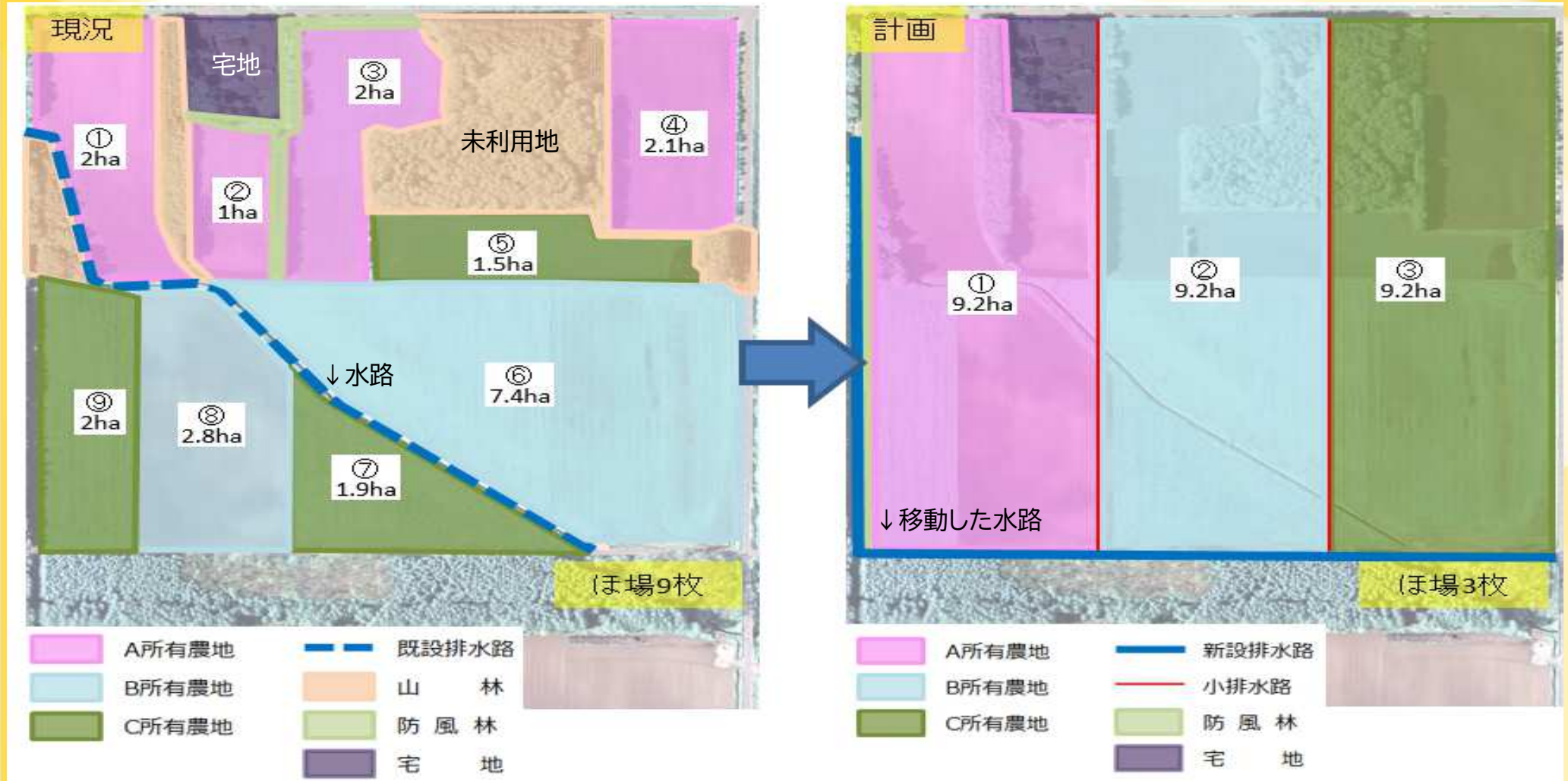
[現状]

- ・農地が不整形で分散で不効率
- ・水路が斜めで維持管理が大変
- ・未利用地がある






[整備後]

- ・未利用を農地に(土地の有効利用)
- ・水路を移動
- ・農地を集積して、整形化



6-⑧営農計画

事業前と事業後で農業者の営農がどのように変化するか(させるか)を検討

	現在(事業前)		計画(事業後)	事業による変化
1.経営面積(ha)	13.5		19.5	経営規模の拡大
2.導入作物	水稻、小麦、大豆、そば		水稻、たまねぎ、にんじん	収益性の高い作物(野菜)に変更
3.農業生産額(千円)	17,050		27,500	生産性向上し収入UP
4.農業経営費(千円)	12,650		18,150	面積当たり経費はコストダウン
5.農業所得(千円)	4,400		9,350	上記の要因で増益
6.農業所得率(%)	26.0		34.0	

6-⑪ 経済効果算定

計画に基づいて算出された事業費(費用)に対し、その費用に見合った効果を得られるかを算定する

費用		効果(便益)	
事業費	100億円	生産量UP	20億円
		作物品質UP	10億円
		労働力軽減	80億円
計	100億円	計	110億円



費用 100億円 < 効果 110億 → 1.1 の効果

6-⑬事業の効果検証

事業着工後、計画とおりに効果が発現しているか調査する

収量調査(増収しているか)、労働時間計測(節減されているか)などで検証



生育調査(水稻)



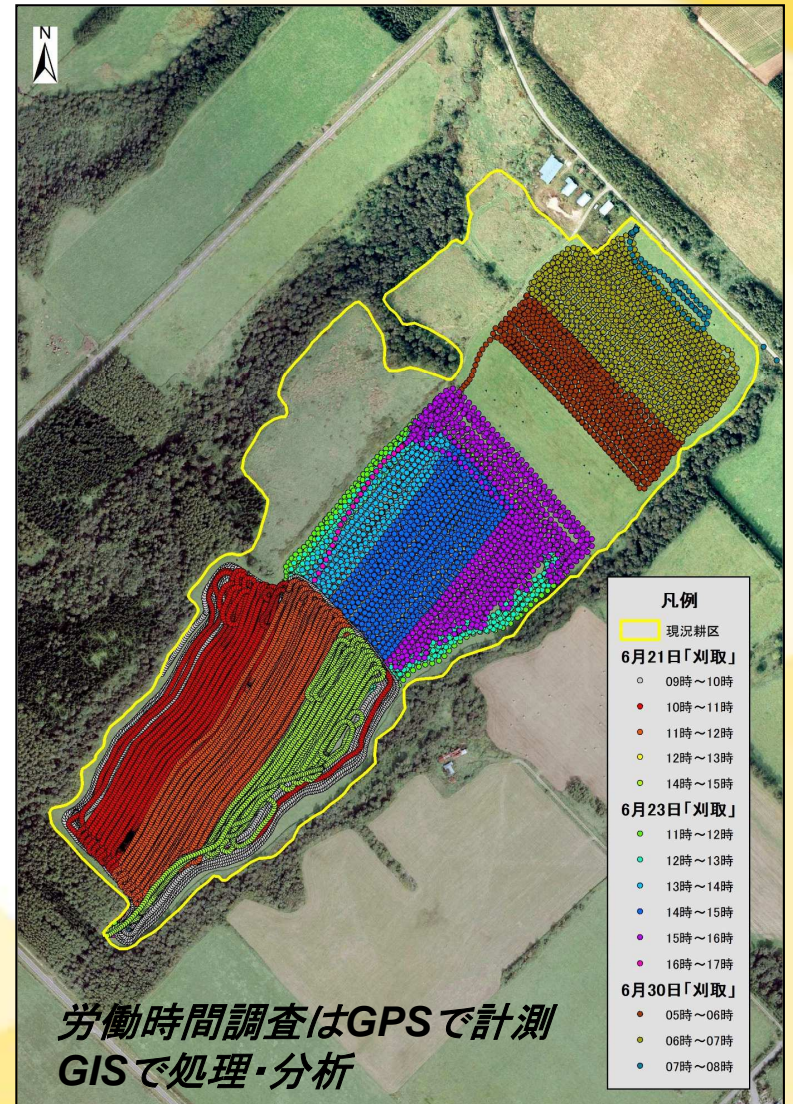
聞き取り調査



収量調査(牧草)

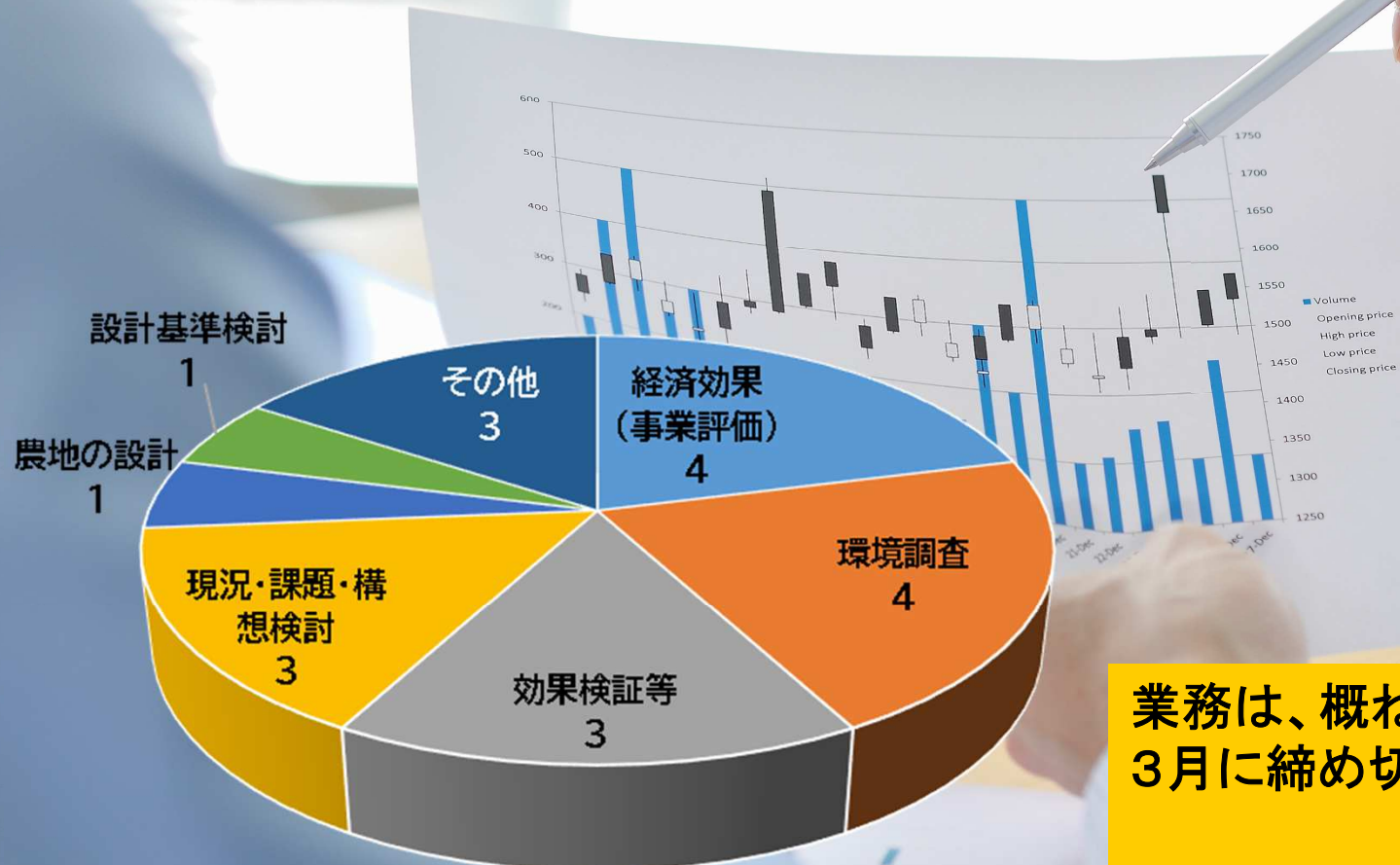


労働時間調査



7. 仕事の種類など

- 仕事は1年に20プロジェクト程度（下図を参照）
- プロジェクト毎に2～3人のチームを編成して業務を行う
- プロジェクトの種類は、毎年変わる



令和3年度の受注業務概要

業務は、概ね4～6月に始まり、1～3月に締め切りがある

履行期間が約8～10ヶ月と長い

8. 年間スケジュール

時期	主な仕事内容	備考
4月	新人は社内研修や補助的な作業	
5月	業務開始期(クライアントと打合せ等)	打ち合わせや現地調査 などで出張が多い ※出張は20日/年 程度
6月	↓	
7月	現地調査、基礎資料収集など	
8月	↓	
9月	↓	
10月	報告書作成	
11月	↓	繁忙期 ※締切が集中
12月	↓	
1月	↓	
2月	↓	
3月		

※デスクワークが主体ですが、現地調査もそれなりにあります。

9. クライアント(発注者)

国からの仕事が多い

- ・北海道開発局
- ・農林水産省(各農政局)

北海道開発局
・全道各地

農林水産省北陸農政局
・石川県 ・新潟県
農林水産省中四国農政局
・鳥取県 ・岡山県 ・山口県

農林水産省九州農政局
・佐賀県

農林水産省東北農政局
・山形県

※過去に受注実績がある区域を図示

10. 会社の所在地等

勤務地: 札幌市中央区北4条西6丁目 毎日札幌会館 7F

JR札幌駅 徒歩5分、道庁徒歩1分



毎日札幌会館外観



創立は昭和51(1976)年、今年で45周年

役職員数15名(男性10名、女性5名)

11. 会社の略歴

昭和51(1976)年

土壌調査や分析等からスタート

昭和62年(1987年)

営農計画や農業農村整備事業の経済効果分析、
整備構想等の業務にチャレンジ

平成20年(2008年)

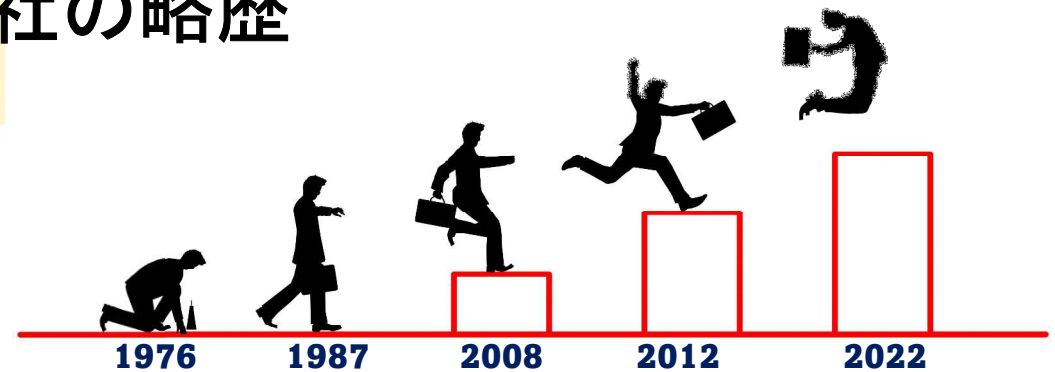
農地の整備に伴う動植物への環境調査等にチャレンジ

平成24年(2012年)

北海道だけでなく府県の業務にもチャレンジ

令和4年(2022年)

費用対効果や整備構想等は7本受注
環境調査は4本受注
府県の業務は4本受注



時代の変化に合わせて新しいことにチャレンジ

12. 就業条件

(1) 就業時間

平日:9:00~17:00 土・日曜日、祝日は休み

(2) 特別休暇

春休:3日 札幌祭り:1日 夏休:3日

年未年始:12月29日~1月4日

リフレッシュ休暇:5年勤務1日、10年勤務3日

(3) 給料と諸手当

基本給+技術給

資格手当+住宅手当+交通費

(4) 賞与

3回(6月、12月、3月)

(5) その他

- ・退職金制度
- ・人間ドック(個人希望オプション2万円迄会社負担)
- ・資格取得支援制度(次ページに詳細説明)

技術職の給与体系

(単位：千円/月)

年齢	金額
22歳	170
23歳	175
24歳	180
25歳	185
26歳	190
27歳	195
28歳	200
29歳	205
30歳	210
31歳	215
32歳	220
33歳	225
34歳	230
35歳	235

※35歳で昇給停止

技術給

(単位：千円/月)

役職 ランク	技師補	技師	主任技師	副室長	室長*	
1	5.0	30.0	70.0	110.0	270.0	
2	7.5	32.5	75.0	115.0	280.0	
3	10.0	35.0	80.0	120.0	290.0	
4	12.5	37.5	85.0	125.0	300.0	
5	15.0	40.0	90.0	130.0	310.0	
6	17.5	42.5	95.0	135.0	320.0	
7	20.0	45.0	100.0	140.0	330.0	
8	22.5	47.5	105.0	145.0	340.0	
9	25.0	50.0	110.0	150.0	350.0	
10	27.5	52.5	115.0	155.0	360.0	
11	30.0	55.0	120.0	160.0	370.0	
12		57.5	125.0	165.0	380.0	
13		60.0	130.0	170.0	390.0	
14		62.5	135.0	175.0	400.0	
15		65.0	140.0	180.0	410.0	
16		67.5	145.0	185.0	420.0	
17		70.0	150.0	190.0	430.0	
18			155.0	195.0	440.0	
19			160.0	200.0	450.0	
20			165.0	205.0	460.0	
21			170.0	210.0	470.0	
22			175.0	215.0	480.0	
23			180.0	220.0	490.0	
24			185.0	225.0	500.0	
25			190.0	230.0	510.0	
26			195.0	235.0	520.0	
27			200.0	240.0	530.0	
28			205.0	245.0	540.0	
29			210.0	250.0	550.0	
30			215.0	255.0	560.0	
31			220.0	260.0	570.0	
手当	資格	○	○	○	○	—
	住宅	○	○	○	○	—
	家族	○	○	○	○	—
	残業	○	○	○	○	—
	通勤	○	○	○	○	—

※室長は管理監督者

13. 資格取得の支援

資格取得にかかる費用を全額支援

- ・ 技術士（国家資格）
- ・ 農業土木技術管理士
- ・ RCCM
- ・ 農業農村地理情報システム技士 など

建設コンサルタント業界での資格は「技術士」のニーズが非常に高い。
技術士試験を受験するには、「技術士補」の資格と実務経験(2～4年)が必要です。
「技術士補」は学生でも取得可能です。

※建設コンサルタント志望者は、学生時に「技術士補」の取得を強く、おすすめします！

資格手当(当社の場合)

資格名	資格手当
技術士(農村地域・資源計画)	42千円/月
技術士(農業農村工学)	67千円/月
RCCM(農業土木)	30千円/月
農業土木技術管理技士	30千円/月
技術士補	17千円/月

14. 社内環境(1)

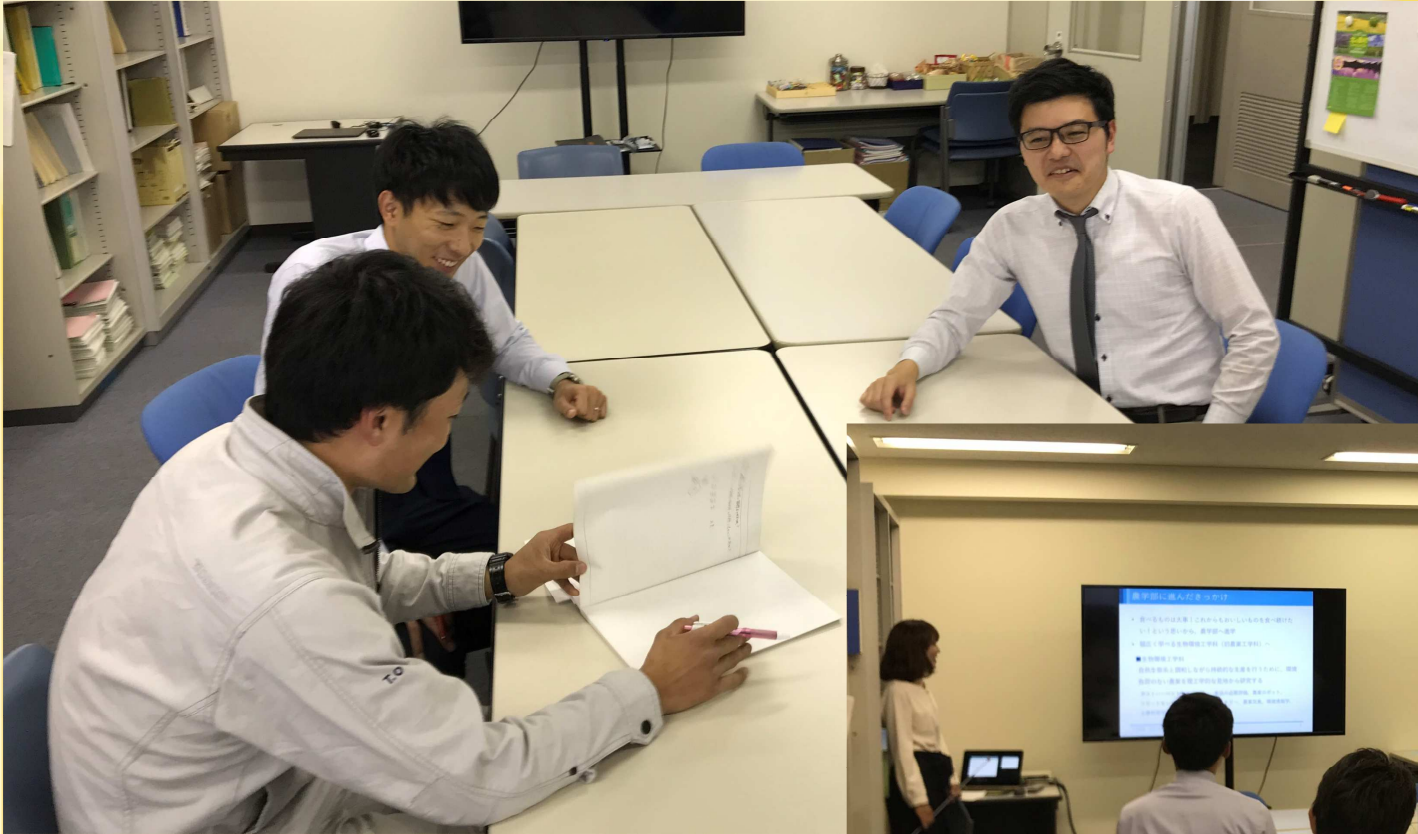


事務所内部

ライフワークバランスを意識し、効率良く業務処理するための環境づくりを進めています

・仕事に集中して効率化 → **大きな机とパーティション設置**

14. 社内環境(2)



ミーティングをしているところ



社内研修をしているところ

14. 社内環境(3)

・円滑なコミュニケーションで効率化→ サイボウズやMicrosoft Teamsを使った情報共有

スケジュール グループ週 個人日 個人週 個人月 個人年

2017年12月3日(日)

スケジュール管理はグループウェアにより、どこにいても共有

	5 (火)	6 (水)	7 (木)	8 (金)
黒田一也	(札幌)	(札幌) 13:30-17:00 岩見沢河川事務所講演会15:00- 道庁 15:00 留守番電話作戦 告知	(札幌) 13:00-15:00 土壌研修 (予定)	(札幌) 15:00 留守番電話作戦 告知
サイエンス (入札)	3 (日)	5 (火)	6 (水) ①(指名)鳥沼宇文地区経済効果開 札(10:00)	8 (金) ①(指名)川合地区完了図書資料開 札(9:00)
福田正信	4 (月) ①(指名)川合地区完了図書資料 切(17:00)	5 (火)	7 (木) 14:00-18:00 北村遊水地事業と地域創生(15:0 0)岩見沢市コミュニティプラザ	8 (金)
		6 (水) 9:30-12:00 計画基準調査打合せ (寒地土木研 究所 10:00~)	7 (木) 13:00-15:00 土壌研修 (予定)	8 (金)
		7 (木) 7:00 網走 (1)		

社内掲示板

有給休暇申請 (全体)

差出人: 黒田一也(全役職員) 2016/6/24(金) 10:13

有給休暇申請の掲示板です。

遅くとも休む前日の16時30分ぐらいまでに、次の事項を書き込んでください。

1. 休む年月日
2. 午前又は午後又は全休か」を書き込む
3. 特別休暇の場合は、その種類 (春季・札幌祭・夏期・慶弔・報労)

管理・総務 (黒田・外川) は、サイボウズ掲示板の内容を確認し、「いいね」ボタンをクリックします
よろしくお願いたします。

2名

コメント **有給休暇は、社内掲示板で申請・承認**

黒田一也 職員A テキスト (A) 書式編集 (A)



ミーティングや全体会議は
Webでの参加が可能

15. 求める人財像

① 農業・農村に興味や関心がある

農村が現場になり、汚い仕事もあります。
専門知識を生かして農業や農家の課題を解決する仕事です。

② 挑戦できる人財

時代に合わせて業務内容を変化や進化させなければ生き残れない時代です！
30歳になっても、40歳になっても、新しいことに挑戦できる人財を求めています。

③ 困難な課題にも立ち向かう

出来ない理由を並べるのではなく、出来るようにするために
どうするかを考える人財を求めています。



エントリーシートの送付は
マイナビのMy CareerBoxでも、
メールでも、郵送でもOKです

メールの場合の宛先は
kk@kankyohozen.co.jp
(黒田宛)

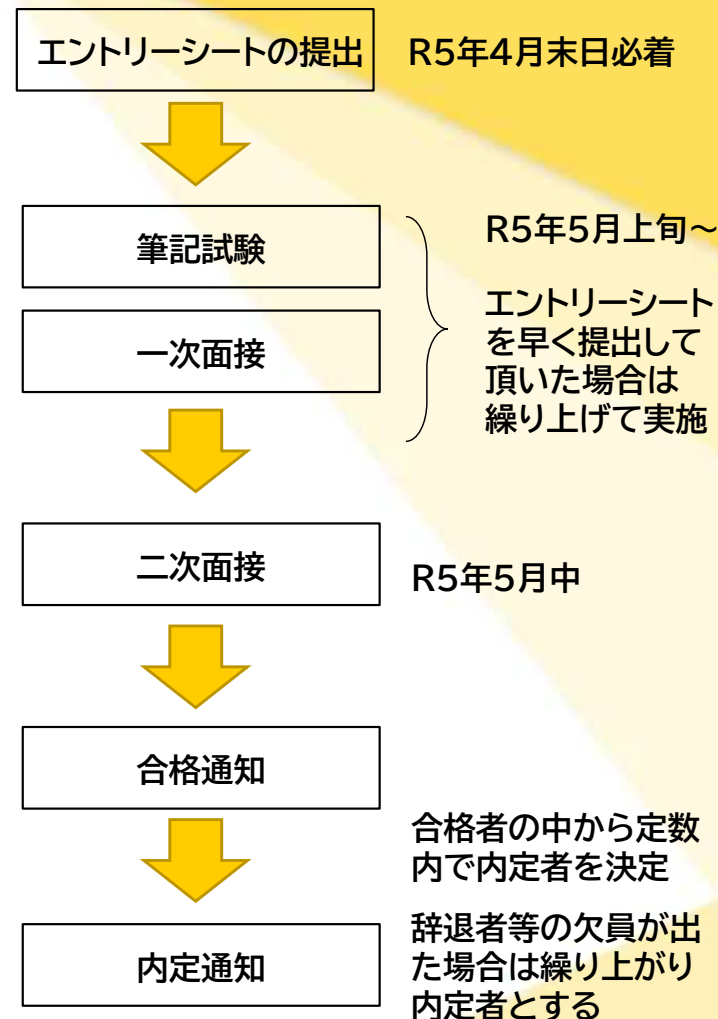


図-内定までのフロー

様式が必要な場合は、メールでお送りします エントリーシート

履歴書		令和	年	月	日現在
ふりがな					性別
氏名					
生年月日		年	月	日生	歳
本籍 (都道府県)					
現住所	〒				
					TEL.
現住所 以外の 連絡先	〒				
					TEL.
高校名 卒業年月		年	月		
大学名 (学部・学科) 入学年月 卒業年月		年	月		
		年	月		
その他 大学院歴等					
卒業論文 研究・テーマ					
所属のクラブ 同好会等					
保有資格					

写真貼付

1. 当社を志望する理由を教えてください。

--

2. あなたが最終的に入社する企業を選択する場合、最も重要視することはどのようなことですか。その理由も含めて説明して下さい。

--

3. 自分の能力を高めるためには、どのようなことが必要だとおもいますか。

--

4. あなたが考えるリーダーとは、どのような能力を持っている人だと思いますか。
あなたはリーダーに向いていると思いますか。そう思う理由は何ですか。

--

5. 組織がひとつになり目標を達成するために、どのようなことが必要だとおもいますか。

--

6. あなたが今まで経験してきたことで、役立っていることはどのようなことですか。

--